【　令和６年第４回定例予算特別委員会　】

【　教員の確保について　】

次に、教員の確保についてであります。

教員志願者が年々減少するなど、教員の確保は重大な課題となっており、我が会派としても、これまで議論を重ねてきたところです。

道教委では、教員志願者の確保のため、教員採用選考検査の改善をはじめ、教職の魅力の発信などに取り組んできていますが、先般、今年度実施した教員採用選考検査の結果が公表されたところですので、先行検査の結果をはじめ、教員の確保に向けた取組について伺います。

（一）　教員採用選考検査の結果について

はじめに、９月 27 日に道教委が公表した今年度の教員採用選考検査の結果について、その概要と結果に対する道教委の受け止めについて併せて伺います。

（答弁：教職員局長　谷川　朗）

・今年度実施した選考検査は、出願者 2351 名、採用候補者として登録された方は 1179 名、倍率は 2.0 倍となり、昨年

と比較して、出願者は 488 名の減、倍率は 0.4 ポイントの減で、いずれも過去最低。

・特に道外会場で出願者が大幅に減となっていることから、1 次検査が他府県と重なったことが、影響しているものと考えているが、取組を強化してきた中にあって、こうした結果になったことを大変厳しく受け止めている。

（二）　セカンドキャリア特別選考について

今年度実施した選考検査では、新たに教員免許の有無を問わず、民間企業等で勤務経験がある者を対象とした、『セカンドキャリア特別選考』を実施しています。

このセカンドキャリア特別選考について、受験状況と選考結果はどのようになっているのか伺います。

（答弁：教職員課長　立花博史）

・多様な経験や専門性を有する人材を幅広く採用するため、免許の有無を問わず、民間等で勤務が 3 年以上の方を対象に、新たに実施したもの。

・出願者 74 名に対し、登録者は 45 名、教員免許を有しな

い方は、出願者 15 名に対し、登録者 11 名。

（三）　合格者へのサポートについて

今回、教員免許を所有していない方が出願者 15 名に対し、11 名登録になったとのことですが、この方々は、今後 2 年以内に教員免許を確実に取得することで、教壇に立つことが出来る取扱いとなっていると聞いています。

教員の確保の観点からもこの方々が教員免許を確実に取得できるよう、道教委としてしっかりサポートしていくことが重要と考えますが、どのように対応していくのか伺います。

（答弁：教職員課長　立花博史）

・免許を持たない登録者を正式に採用するためには、令和 8 年度末までに、教員免許を取得していただく必要があることから、検査結果公表後、登録者全員に個別に連絡し、免許取得方法や取得時期などを確認したところ。

・道教委としては、登録者全員が期限までに確実に免許を取得できるよう、今後も免許取得状況の把握などの対応を行うとともに、各種資料を提供するほか、研修について案内する

など、継続的な支援を行ってまいる。

（四）　特別選考の拡充について

教員免許を持たない方が教員採用候補者として登録されたことは、教員確保の面だけではなく、これまで選考検査を受検できなかった方に門戸を開くという意味でも、意義のある取組と受け止めています。

教員の確保に向けて、特別選考の対象を拡充することも重要な方策と考えますが、道教委の見解を伺います。

（答弁：教職員課長　立花博史）

・教育課題が多様化する中、様々な背景や専門性を有する人材を活用することは、教員の確保につながるだけではなく、学びの質を高めるなど、様々な効果が期待できる。

・文科省では、オリンピアンやパラリンピアンなど、アスリートの学校教育への参画を促進するため、リストの作成や加配などの支援を行うこととしていることから、こうした施策を活用するとともに、ALT 等の積極的な活用など、特別選考の一層の拡充について検討してまいる。

（五）　　大学３年生を対象とした特別検査について

道教委では昨年 12 月、大学 3 年生などを対象に特別選考を前倒しで実施する『特別検査』を実施したと承知しています。この特別検査の合格者は、今年度、専門検査や面接を経た上で、採用候補者に登録されることになります。

昨年度、特別検査を受検した方々の最終的な受験状況などがどのようになっているのか伺います。

（答弁：教職員課長　立花博史）

・より多くの教員志願者を確保するため、早い段階で意識付けを促すとともに、受験準備に係る負担を分散することが出来るよう、大学３年次に受検する『特別検査』を新たに実施。

・昨年 12 月検査では、受検者は７４１名、７２２名が合格となり、うち６２５名が、専門検査と面接を受験し、最終的に４３２名が登録したところ。

（六）　　来年度以降の対応について

今年度の特別検査の結果をどう評価し、また、来年度以降

はどのように対応していく考えなのか伺います。

（答弁：教職員局長　谷垣　朗）

・特別検査の受検者の殆どは、道内大学の在籍者であり、今年度の出願者が大きく減少する中、道内の出願者は、僅かではあるもの増加。

・特別検査の実施は出願者の確保に一定の効果があったものと考えており、大学からも受験者の負担軽減の面などで評価をいただいているほか、昨年、特別検査で不合格となった19名のうち10名が、今年度改めて受験し、7名が登録者となるなど、受験機会の拡大の面でも意義があった。

・特別検査のより早期の実施は負担の一層の軽減につながることなどから、実施時期を更に前倒し、6月検査において大学3年生も受験可能とするなど、検討してまいる。

（七）　教員養成セミナーについて

道教委では、高校生に教職への関心を高めてもらうため、教員の仕事や魅力を紹介するほか、現職教員との懇談や教員体験、現役学生とのグループ協議等を行う『教員養成セミナ

ー』を開催しています。

　今年度の取組と参加した生徒の声や今後の対応について伺います。

（答弁：教職員育成課長　松橋　朗）

・『教員養成セミナー』は、教職への興味・関心が段階的に高まるよう、学年ごとに計 6 回の開催。道内の 72 校から、第 1 学年 196 名、第 2 学年 195 名、第 3 学年 166 名、計 557 名が参加。

・参加者からは、『現職の先生から直接話を聞き、教師になりたい気持ちがさらに高まった』や、『小・中・高校など、それぞれの学校でのやりがいを知り、どの校種にも魅力を感じた』などの声。

・今後、参加した高校生から寄せられた意見を踏まえてテーマを設定。これまで以上に高校生のニーズに即した内容とし、教職の魅力を理解してもらえるよう、充実を図る。

（八）『みらいの教員育成プログラム』について

　また、道教委では、北海道教育大学と連携して、教員を目

指す高校生を対象として『みらいの教員育成プログラム』を、札幌北稜、旭川北、釧路江南の３校を拠点校として取り組んでいます。

　今年度の取組の実施状況について、成果と課題を含めて伺います。

（答弁：高校教育課長　高田安利）

・教員を目指す高校生の意欲を高めることを目的として、令和４年度に開始したこの事業では、本年度、道央圏域は札幌北稜高校、道北は旭川北高校、道東は釧路江南高校を拠点校として、合わせて14校、生徒133名が参加。

・実際に小学校に出向く実習や大学教員による専門的な講義の受講、目指すべき教師像に関する学習・発表などのプログラム。

・アンケートにおいては、全ての生徒から『教員になりたい気持ちが強くなった』という趣旨の回答。参加する生徒は、この３年間で約４倍となるなど、教員を目指す高校生にとって、体験型のプログラムに対するニーズは高まってきており、事業を実施する地域の拡大が今後の課題。

（九）　今後の対応について

教員採用選考検査の結果や今後の方向性、高校生を対象とした取組について伺ってきましたが、様々な分野で人材不足が課題となる中、教員を確保していくためには、選考検査の改善だけではなく、働き方改革の推進と合わせた教職の魅力の発信など、様々な取組を一体的に進めて行くことが重要と考えます。

道教委としては、今後、教員の確保にどのように取り組んで行くのか、教育長に伺います。

（答弁：教育長　中島俊明）

・優れた教員の確保は何よりも重要であり、道教委として、最優先で取り組むべき課題と認識。

・より多くの有為な人材の確保を図るため、受験機会の早期化など選考検査の一層の改善により、教員志願者確保の取組を進めるとともに、大学と一層の連携を図りながら、教員育成プログラムをはじめとした、志願者の裾野を広げる取組を強化する他、学校の実情に即した働き方改革を着実に推進す

るなど、より魅力のある職場となるよう、様々な取組を総合的に推進し、教員の確保に全力で取り組んでまいる。